

# 磐城春秋

第三十六號  
 發行所 磐城市平野町四丁目八番地  
 印刷所 磐城市平野町四丁目八番地  
 電話 二一五  
 定価 一頁五錢

## 地方文化向上の爲

### 近く平市に公民館設置

長谷川課長に構想を聴く

文化國家建設の基礎づけとして市町村に公民館を設置し、これを中心として地方文化の向上をはからうとする文部省の構想は時流に投じ既に本縣でも福島市ではその編成と事業を公表してゐるが平市の長谷川教務課長は一日仙台市第二高女で開かれた「宮城、山形、福島三縣下公民館設置運籌協同會議」に出席つゞきに文部省當局の意圖を聴いて二日歸郷のやうに語つてゐる。いろいろ聞いて来たが近く公民館設置準備委員會を作り、平市の實狀に即したものを作つて運籌することになる。成人教育として各種講演、講座、映畫、展覽會、讀書指導等をやつてゆくについても適當な建物が要るわけだが戦災都市で利用できる建物はなく新しく建てるにも資材がないから差

## 化学工業品の生産増強を協議

生産増強を協議

福島縣化学工業會連連通理事會が九月二十八日午後一時より平市常陽銀行樓上で開催され星製藥、木根忠敬氏が委員長となり工業會から永井主事、縣から大槻技官を迎へ、各工場重要指定品目の生産増強に關する協議を行つた。同委員會の積極性ある自主的運籌は各方面から今後の活動を注目されてゐる。

## 世界平和繪畫展覽會

國際文化普及會では十月六日より三日間平市公會堂で世界平和繪畫展覽會を開催する。



## 追放

△一時はいろいろの物が店頭にあつてはれて明らなつた商店街がまたさうな姿を消して明らなつて来た。

△駅前名物園市は撤去されたが、マルトモ通り附近には風呂敷色のふかしや梨などが盛んに賣られてゐたがそれも禁止された。

△どうせ公定で手に入り、配給で手に入る物は限られてゐるのだ。たとへば物でも公然と手に入れれば必要な人には貴重の上になつた。他の都市では隠分物が出廻つてゐるのに何故平ばかりが出廻つてゐるのか。

△説をなす者曰く「平は人々がうらみからた。取締當局も大目に見て取締を緩和した方が好い。これは承知してゐるがどうしてあれを取締らぬかと抗議されると取締らざるを得ないのだと語つてゐる。

## スポーツニュース

◇平第一國民學校同窓會と田村運動具店との共同主催で平區内第一回學童軟式野球大會が開催される。期日は十月十九日正午より二十日八時からの二日間第一國民學校々庭にて。参加資格は十五才未満で市内國民學校、中等學校通學者に限ること。申込は十六日迄田村運動具店へ。

◇讀賣新聞社主催第五回縣下軟式野球大會連連通選抜會は十月六日平工、平南兩球場にて開催。△相馬代表は中村クラブ、金星(原ノ町)、△双葉代表 オール浪江、オール富岡、△石城代表 平三丁目クラブ、常磐製作所、勿來クラブ

◇東北六縣礦山軟式野球大會は九月二十九日仙台市で開催、常磐炭礦チームが優勝した。

◇大日本体育大會主催全國庭球大會東北選抜は九月二十九日盛岡市で開催、本より出場した一般(小川、志賀)組、壯年(園部、大内)組が夫々優勝

## 人物 邊幅を飾らぬ專業家 佐藤幸太郎氏

平の新興專業家として正木、駒不根の兩氏を紹介したからには猪狩四郎氏と佐藤幸太郎氏を逃したのではない、か片手落しを免れた。これら四氏はその性格や經營ぶりに多少の毛色の違つた格はあるが多角的に大膽に事業を擴張してゆくといふ点に於ては何れにも共通してゐる。

佐藤幸太郎氏は當年四十九才、正木、猪狩、駒不根の三氏が何れも、草野、玉川等他町村の出身であるのに反し彼は生え抜きの平つ子だ。昭和十五年企業整備に遭つて家業の米屋を廢業、内郷小島に硝子製造所を買取、平硝子製造所を經營したのが押も彼の專業家としての第一歩でこの硝子製造所

その後企業整備の嵐に襲はれ危機に陥んだ。しかし外見線の細い女性的な人物といふ印象を與へるが若い時は負けず嫌ひな氣骨のある少年として鳴らしたつたといはれる彼の胸中には烈しい事業遂行に對する熱意がもててをりとう／＼嵐の中を突きぬけ、今では第三工場を持つてアンブル、投資瓶、電球バルブ等製作者、近く第四工場として板硝子の製造にも手を染めようとしてゐる。市會には町會時代から現在迄三期連続して選出されてゐるが市政に對する興味は事業に依つて平市の發展、延びは敗戦後の國家再建に貢獻するのが自分の使命であるといふ心境に達してゐるやうである。現在

## 商工會議所に就て

小野 博司

存續が、廢止か、識者の注目的となつて居た平商工經濟會が終戦一年の今日、發展の解消をとり、共に、新しい角度を意圖を以つて當平商工會議所となつて浮び上つて来た事は、誠に商工業者の一人として喜びに耐へない。街の商工業者の一員として感想を求められたので聊か私見を述べて見ることとする。

從來の商工經濟會に就いて考へるに左の事實を見る。

- 一、商工業者の爲の經濟會でなく、其儘に働く者の機關であつた点
- 二、伸縮自在であるべき商工經濟會が型にはまつた官僚經濟であつた点
- 三、多分に名譽職的な存在であつた点
- 四、總括的に一部の人のみの經濟會であつて全般の商工業者自体

モ御下命次第納付可致候」文法上の誤りもあれば無駄な文句も多いこれが書式として活字になつて生きてゐるのだから恐ろしい。正に珍文として保存するに足る。

△小名瀨鐵道鐵道の争議は九月廿八日解決したが争議中送つて来た聲明書や宣傳文は何れも卑俗に流れたる氣味を具へた立派な文章であつた。あまり暴露的であつたり下品な文章だつたりする大衆の同情を得ない。

## 平市選舉監理委員

### 左の如く決定

平市の選舉監理委員は本五日の市會に於て左の如く決定した。この委員は公吏としての取扱を受け縣會市會の被選舉權を拋棄し、議員候補者の資格審査、選舉名簿の調製等一切の選舉事務を監理することになる。

松崎松治 阿部政右衛門  
猪狩匠平 佐藤市助役  
補助  
鈴木忠三郎 門傳清吾  
菅間正秀 小野寛美

## 廿二日創立總會

平商工會議所は廿二日創立總會を開く。

平商工會議所は廿二日創立總會を開く。總會には常議員廿六名が選出され會頭

要すれば以上のことを基礎におい、眞の意味の商工業者自体の、商工業者自体に依る、商工業者の爲の商工會議所の出發を心から願ふものであります。

本紙講談希望者は四ヶ月分金拾圓(郵税共)を前納御申下下さい  
 磐城春秋社

## 平商工會議所設立公告

今般左記に依り社団法人平商工會議所の設立を發起致しました。

昭和二十一年十月五日

社団法人 平商工會議所  
 設立發起委員長 山崎 與三郎

## 記

- 一、會員の資格  
 商工業を営む個人及法人、これ等の者を以て組織する團體、其他本會議所の目的を發期する者
- 二、目的  
 商工業界の輿論を結集して其の實現に努め、緊密な連絡協力に依つて商工業者の利益を保護増進し総合的に産業の健全な進歩發達を圖り以て我國經濟の發展と民主化に寄與すること
- 三、會費  
 拾圓也(但し本年度に限り金五圓也)
- 四、入會申込締切日 十月十五日
- 五、入會申込先  
 平市紺屋町二十四番地  
 社団法人 平商工會議所設立事務所  
 (電話三一九番)

文 藝

投稿 歡迎  
可紙上匿名

塵塚より(二)

天出 垂夢

一休隨筆と云ふものが非常に價値あるものとされてゐるが、如何なる理由からであらうか。

隨筆と云ふ文字から考へてもわかる様に是は筆に隨ふと云ふ事である。その書きの記録である。つまり頭や手や紙が先になるのではなく、最先に筆が出るのである。何も目的がある譯ぢやない。唯、然と筆を取つて、筆の動くがままに筆を走らせば、歩いてゐるのやうだ。云ふならば、歩いてゐるのやうだ。云ふならば、歩いてゐるのやうだ。云ふならば、歩いてゐるのやうだ。

たせ乍ら歌々走つてゐる。鏡の中の私は斯うつぶやく。だが平然たるもんだ。人間は精神の問題である。肉體は精神に支配される物質に過ぎないではないか。然し肉體を離れずと云ふ意味ではない。形而上の肉体は、やせさらばへて骨と皮ばかりになり、それだけの損耗を償ふに足らぬ程の精神の糧を得るか云ふ事のみを懸念するのである。目的とする所は遠い。されど道は近きにあるのである。身は失すとも魂は私に於て行つてゐる。私を私を信じて疑はない。そして私の未来の人生も亦長くはない事を信じて疑はない。故に私にまつて今最も關心を必要とするのは、益々くもな未来に致された「時」である。

私の進むべき大道は唯一本。太く正しく前方に無限に走つてゐる。然し、無限だ。此のやせかけた五尺の身体で無限の道を進むのだ。唯意志で、湧いて来る不屈の闘志無限の道だ。無限の道だ! 苦難の道だ! 死んでも歩み続ける意志の力で頑強なのだ。

十月の映畫

一日「東京特急四列車」  
八日「望郷」  
十四日「鍵を握る女」  
十五日「男の恨み」  
二十一日「浪華悲歌」  
二十二日「浪華悲歌」  
以上平館。楽館は「望郷」  
一日「七」  
八日「お嬢さんお手を」  
十二日「元禄女大名」  
十五日「元禄女大名」

仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男

平働券署より  
製材見習工男三名 十八歳二十歳迄 日給八十四圓位 見習期三ヶ月 湯本江間在任ノ者  
製材見習工男二名 二十歳前後ノ者 住込月五十五圓位 通勤者日給三十四圓位 住込ノ場合ノ夜具持込ノ者  
女事務員一名 十八歳二十歳迄 女事務員一名 十八歳二十歳迄 女事務員一名 十八歳二十歳迄

就職案内

平働券署より  
製材見習工男三名 十八歳二十歳迄 日給八十四圓位 見習期三ヶ月 湯本江間在任ノ者  
製材見習工男二名 二十歳前後ノ者 住込月五十五圓位 通勤者日給三十四圓位 住込ノ場合ノ夜具持込ノ者  
女事務員一名 十八歳二十歳迄 女事務員一名 十八歳二十歳迄 女事務員一名 十八歳二十歳迄

寄贈雑誌紹介

機関紙としては恐らく内容が充實してゐる。全然カクツ無しが特色で編輯体裁第一流である。★ふくしま 九月號

就職案内

平働券署より  
製材見習工男三名 十八歳二十歳迄 日給八十四圓位 見習期三ヶ月 湯本江間在任ノ者  
製材見習工男二名 二十歳前後ノ者 住込月五十五圓位 通勤者日給三十四圓位 住込ノ場合ノ夜具持込ノ者  
女事務員一名 十八歳二十歳迄 女事務員一名 十八歳二十歳迄 女事務員一名 十八歳二十歳迄

仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男

平働券署より  
製材見習工男三名 十八歳二十歳迄 日給八十四圓位 見習期三ヶ月 湯本江間在任ノ者  
製材見習工男二名 二十歳前後ノ者 住込月五十五圓位 通勤者日給三十四圓位 住込ノ場合ノ夜具持込ノ者  
女事務員一名 十八歳二十歳迄 女事務員一名 十八歳二十歳迄 女事務員一名 十八歳二十歳迄

仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男  
仁井田 大木組 大木光男

内木外科醫院

内木 宗八  
平市大町二番地  
電話六八三番

酒井 醫院  
平市南町  
電話五五番

大森 醫院  
平市南町  
電話二五八番

少年の町」役場  
鈴木 傳明  
平市公會堂前  
電話六〇三番

神谷工業原料

株式會社  
社長 神谷兼次郎  
平市田町五十六  
電話六五六

福島縣指定自動車  
株式會社  
平市正月町  
電話三三〇番

福島縣指定事業重點工場  
平市製糖所  
平市製糖所  
平市製糖所

釜屋 商店  
平市五丁目  
電話九番九九番

内科小兒科

大森 醫院  
平市南町  
電話二五八番

少年の町」役場  
鈴木 傳明  
平市公會堂前  
電話六〇三番

釜屋 商店  
平市五丁目  
電話九番九九番

釜屋 商店  
平市五丁目  
電話九番九九番

小西食品店

平市銀座通り  
電話六二四番

久野電機工業所  
平市二丁目九番地  
電話平七二番

日本醫療團平病院  
平市十五丁目  
電話六〇八番八一番

釜屋 商店  
平市五丁目  
電話九番九九番

内科外科

金成 醫院  
平市八幡橋  
電話二八六番

久野電機工業所  
平市二丁目九番地  
電話平七二番

日本醫療團平病院  
平市十五丁目  
電話六〇八番八一番

釜屋 商店  
平市五丁目  
電話九番九九番